

令和4年度 第4回河原地域振興会議（鳥取県大山町ほか視察）

日 時 令和4年11月25日（金）

場 所 鳥取県大山町及び南部町

〔出席委員〕

竹田賢一、林 昭男、谷山吉雄、下田和実、小谷加代子、有田直政

（順不同）

〔欠席委員〕

坂本綾子、山下教幸、中村佳紀、奥谷仁美、楮原典子、西尾 敦

〔市民生活部 地域振興課〕

中島主事

〔事務局〕

武田副支所長兼地域振興課長併教委分室長、吉田地域振興課課長補佐

会議次第

1 開 会

2 会長あいさつ

3 視察研修目的

（1）やらいや逢坂（大山町）

様々な地域の方々が参画して、人口減少や少子高齢化により地域コミュニティの維持目的として、今後も住み慣れた地域で安心して暮らし続けるための様々な仕組みづくり（コミュニティカフェ・食堂、高齢者の健康づくり・移動支援等）を学ぶため。

（2）NPO法人なんぶ里山デザイン機構（南部町）

交流人口や移住定住者の増加及び生涯活躍のまちづくりを目的として、地域内の空き家を発掘して、リフォームするなど空き家所有者との交渉、入居者とのマッチング、空き家の管理などのノウハウや様々な取り組みにより積極的に活用されている取組みを学ぶため。

4 その他

5 閉 会

視察研修概要

① やらいや逢坂（大山町）

やらいや逢坂は、本市で言うところのまちづくり協議会に当たる組織です。そして、そのまち協のメンバーと大山町への UIJ ターン者が中心となって組織された「築き会」が協働で様々な地域活動を行っています。

この逢坂地区には、まちづくり協議会は存在するものの公民館はありませんが、町から300万円程度の活動資金が補助されるのでそのなかで様々な活動（カフェの人件費や施設の水道光熱費もここから捻出）が行えるほか、各まち協に「集落支援員」が町から配置されるので、活動の中身が本市よりかなり充実していることがうかがえます。そこで交流・健康・環境・文化芸術・コミュニティビジネス・子育て支援・移住定住支援の7つの柱を作って活動を行っておられます。特にカフェでは200円でコーヒーが飲み放題になるなど、地域のコミュニティの場として機能しています。実際に視察に伺ったタイミングにおいても地域の方がカフェの方と談笑していたり、若い3人組が視察にふらっと現れるなど活況を呈していました。そのほか、蔵ギャラリーや畳の間を活用したフリーマーケットなど古民家を活用して様々な地域活動を行っておられました。また、同所には移住交流サテライトセンターが併設しており、地域の人との交流や地域の様々な情報が得られる場として有効に機能しているように感じました。本市河原町においても同様のことは財源的に難しいかもしれないですが、公民館活動とまち協を一体化した運営手法は参考になると感じました。課題としては、若い人の活動参加が少なく困っていることやかつて高齢者の移動支援を行っていたが、ニーズの把握が難しいこと及びマンパワー不足もあり、きめ細やかな対応が困難で現在は行っていないとのことでした。

② なんぶ里山デザイン機構（南部町）

町の人口減少対策と交流人口の増加、住み続けられる活気あるまちづくりを目的に活動をされています。この団体では、役場との協働を取りやすいNPO法人とし、町と緊密な連携を図り様々な業務を町から業務受託することにより、5人の常勤職員を抱える組織として機能していますが、機構全体の収入の中で委託料の占める割合が約7割であり、残りの約3割が自主財源で主に家賃収入とのことであり、自主財源の割合をいかに増やしてい

くかという課題もあるようです。

移住定住推進事業や無料職業紹介など本市でもやっていることではありますが、さらにふるさと納税業務を併せたワンストップサービスを行っています。集落の維持には、1件のUターンでも活気づくとの思いで、とりわけ空き家対策については、町内まち協と連携し、空き家の情報収集に努めているほか、借り上げた家の入居に際して、機構側が面接を実施したり、自治会との面会をセッティングするなど移住者と地域との橋渡し役を行っています。また、貸主の固定資産税を肩代わりしたり定期借家契約を導入するなど貸主の立場に立った幅広できめ細やかなサポート制度を実現している点が先進的であると感じました。空き家問題はいまや全国どこでも大きな課題の一つであり、本市においても例外ではなく特に中山間地域である本市河原町においては、参考となる点が多々あったように思います。

ここでは、県外からの移住というより、逆に米子市の方からの移住が多いという話は印象的でした。また、地域の住民も我々を歓迎して出迎えてくれましたが、いわゆるおせっかい的な温かな地域の方のサポートやこの機構の方々の温かいもてなしといった見えない支援が、移住してきた人、お試しで来た人に対して、移住定住の決断を後押しする大きな要因のひとつにも感じました。

また、しごとコンビニなど県外企業の監修のもと先進的な事業にも積極的に取り組んでいるほか、本体の事業運営の手法などについても同様に県外企業からの監修を受け運営改善を適宜行っておられます。

○視察報告（視察を終えての委員の感想）

- ・本市河原町においても空き家が多くなってきており、この取組みは非常に参考になると感じた。
- ・住民一人一人が主体的に関わり、住んでいる人がここに住み続けたい、幸せを感じられる地域づくりが必要だと改めて感じた。
- ・取組み内容自体は本市河原町でも行っているものも多くあったが、その規模や運営体制は充実していると感じた。
- ・本市河原町内の5つのまち協・むら協の連携を進化されれば町全体としてさらなる活性化が図られると感じた。
- ・公民館との連携の強みが本市にはある。

- ・住民の当事者意識の醸成や住民同士の繋がりを大切に地域課題を積極的に取り組んでおられると感じた。
- ・運営体制の充実や行政の支援（人件費・活動費共）が充実していると感じた。
- ・空き家活用の目的は「地域を元気にすること」に同感した。
- ・里山デザインの取組みのコンセプトや仕掛けはとても参考になった。
- ・「間口は広く、多くの人を巻き込み、地域をよくしたい。モットーは顔を合わせ言葉を交わすこと」の考え方に共感した。
- ・住民が地域づくりへ関わるためには、事務局の積極的な声掛けやリーダーが不可欠であり、地域の危機感の共有が必要ではないか。
- ・地域の人材育成とともに、移住者を呼び込む総合的な対策が必要だ。
- ・移住定住策について今後は官民一体の取組みが必要だ。
- ・2か所の視察先はいずれも活発で組織がしっかりしているので両地域の取組みを参考にできるところからでも取り組んでいきたい。